

第3回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会

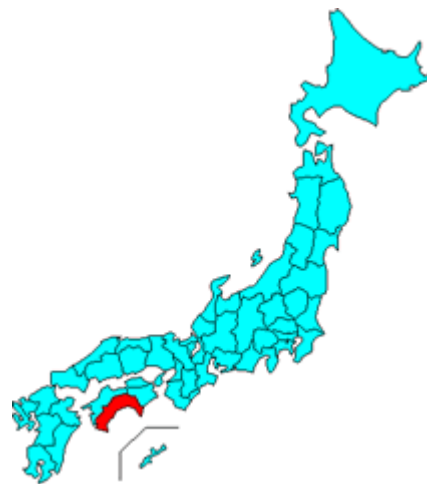
3) 苦痛のスクリーニングについて

2. 外来での取り組み紹介

高知大学医学部附属病院
がん治療センター・緩和ケアセンター
ジェネラルマネージャー
北川 善子

高知大学医学部附属病院 概要

- 高知県南国市
- 病床数 613床
- 平均在院日数 15.8日 (平成27年)
- 1日外来患者数 約1,000人
- 年間外来がん患者数 (のべ)
32,647人 (平成26年)
- 外来化学療法室 14床
- がん登録 約1,500人/年
- 緩和ケアチーム紹介件数
78件 (平成27年4~11月)



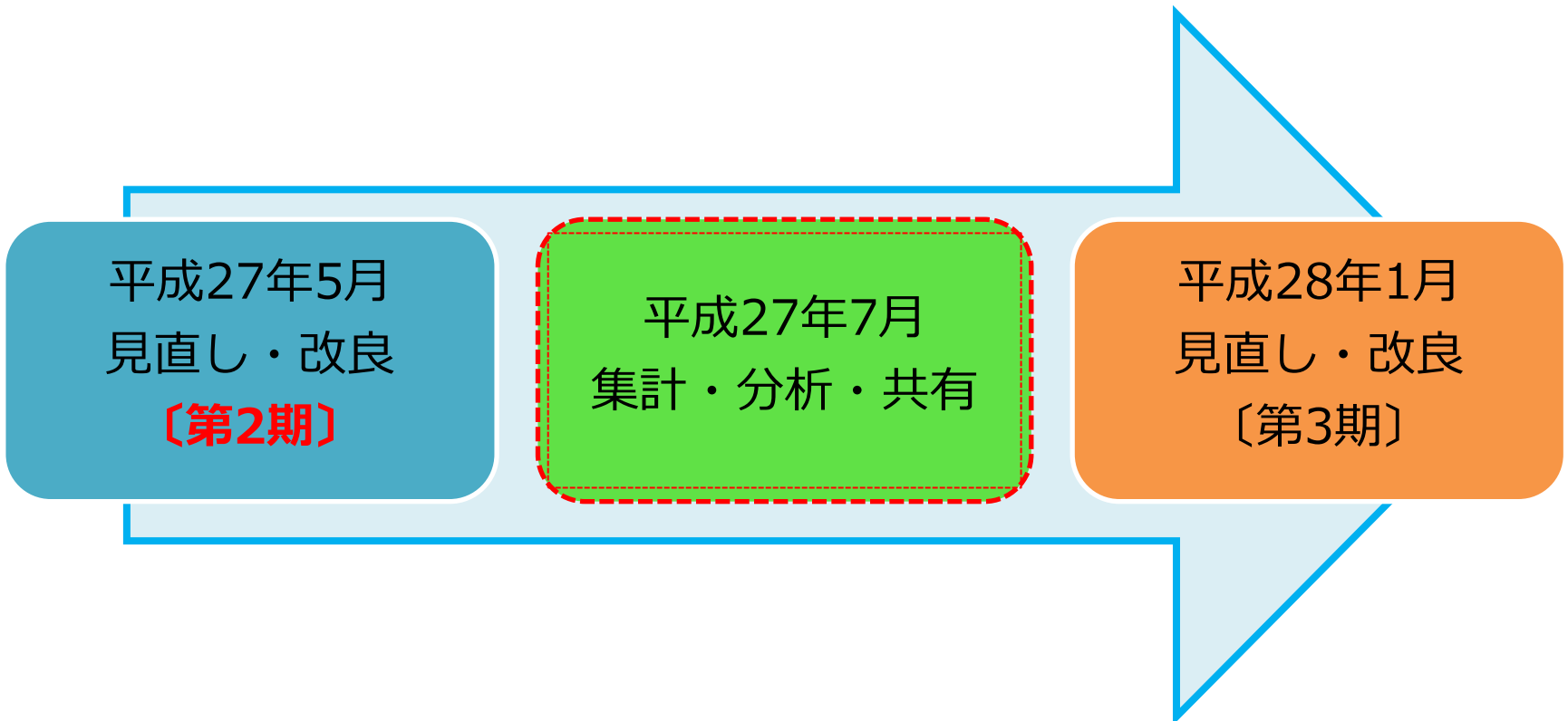
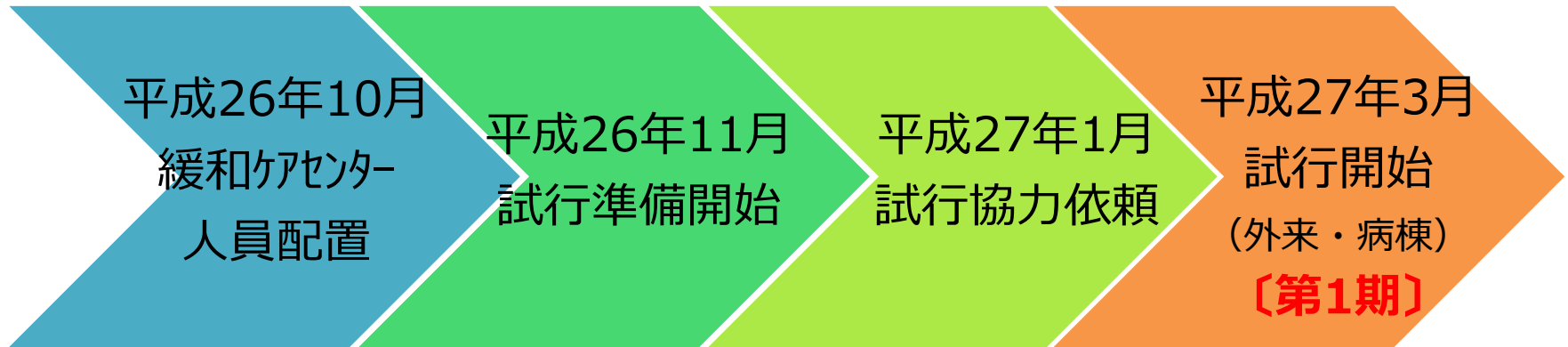
緩和ケアセンター 構成メンバー

- センター長 1名 (がん治療センター長)
- ジェネラルマネージャー 2名
(リエゾン精神看護専門看護師, がん看護専門看護師)
- 医師 3名 (緩和ケアチーム専任医師など)
- 看護師 2名 (緩和ケア認定看護師, がん看護専門看護師)
- 薬剤師 2名
- 医療ソーシャルワーカー 1名 (地域医療連携室所属)
- 歯科医師 1名, 歯科衛生士 1名
- リハビリテーション部 4名
- 管理栄養士 1名 など

紹介内容

1. 外来での導入プロセス
2. スクリーニング対象や実施時点, 実施場所
3. 外来運用フロー, スクリーニング結果
4. 集計データの管理
5. 誰が何を担い, 実施できるようになったか
6. 苦痛のスクリーニングの有効性
7. スクリーニングによるメリット
8. 今後の課題

1. 外来での導入プロセス



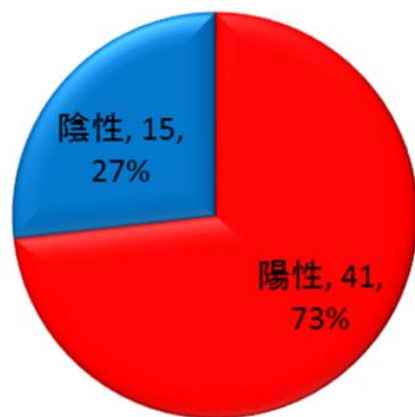
2. スクリーニング対象や実施時点, 実施場所

- 対象：外来化学療法を受ける乳がん患者
- 実施時点：外来診察前
- 実施場所：外来
- スクリーニング準備（外来前日）
 - ① 外来看護師：対象者を確認し、質問票を準備する
 - ② PCC Ns：①をサポートし、化学療法室スタッフに
対象者を知らせる
- スクリーニングツール：「生活のしやすさに関する
質問票 浜松版」を参考に作成した当院版を使用
- スクリーニング間隔：化学療法各コース初回（day1）

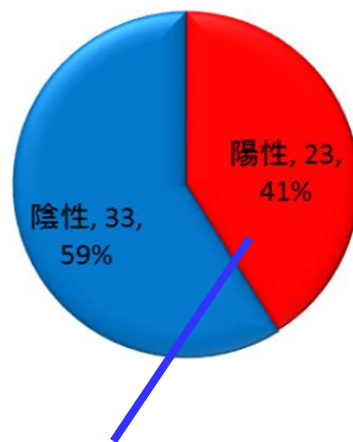
スクリーニング結果 ①

- 期間：2015年5月～7月
- 対象数：56名
- スクリーニング回数（のべ）：135回

1. スクリーニング結果 n=56

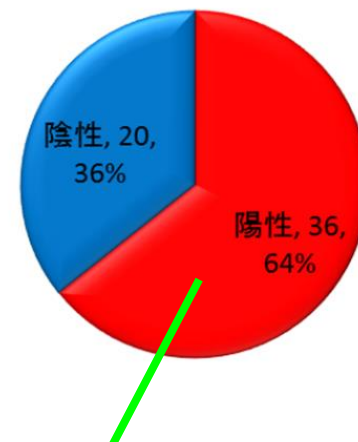


2. からだの症状 n=56



疼痛 しびれ
食欲不振 倦怠感など

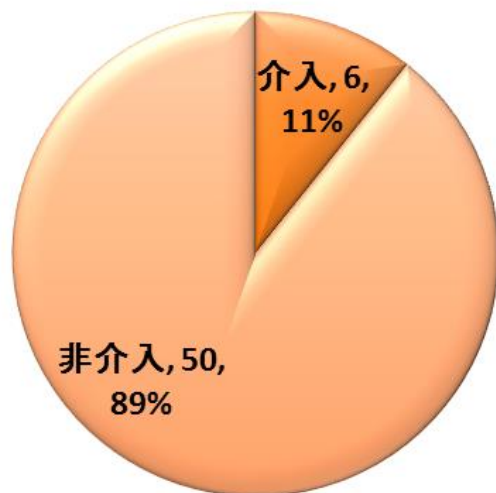
3. 気持ちのつらさ n=56



気分の落ち込み 気持ちの焦り
精神症状（精神疾患悪化を含む）

スクリーニング結果 ②

5. ④専門チーム:実際に介入した



〔介入担当内訳〕

がん看護外来：3人

緩和ケアチーム：2人

MSW：1人

- 導入当初と同様に「介入希望」はあるが、診察・外来での対応によって、実際の介入には至らないケースが複数あった
- 患者の回答や反応から、
 - 質問票を介して、主治医や看護師とコミュニケーションが図れる
 - 診察時にタイムリーに対応してもらえるなどが、症状緩和や不安軽減につながっている可能性があるかと捉えられた

スクリーニング目的のひとつ
「基本的緩和ケアの提供」の
実践・結果

4. 集計データの管理

- 記録：看護師が専用テンプレートに入力する
- 記録データは医療用DWH（データウェアハウス）と接続している
- 電子カルテ上で、欲しいデータを検索・抽出できる



5. 誰が何を担い、実施できるようになったか

今年3月：運用開始時

- 外来業務に支障をきたすことなく、スタッフの抵抗感が少なく導入できるように、緩和ケアセンター看護師がスクリーニングを担当した
- 運用を進めながら、スタッフとコミュニケーションを密にし、患者に関する情報共有を通して連携を深めた

今年5月：見直し・共有・改良

- 外来看護の変化を含め、スクリーニング関連データは短期間（1～3ヶ月間隔）でスタッフや看護師長、看護部、外来担当医に報告・フィードバックするようにした
- 見直し・改良では、スタッフの意見を積極的に採用した

現在

- 外来看護の一環としてスクリーニングを実施し、気になる患者にかかわる/看看連携など、外来での看護展開に変化が起きている

6. 苦痛のスクリーニングの有効性

患者-医療者 コミュニケーションの円滑化

- 質問票をツールとして用いることで、コミュニケーションが図りやすくなってきている
- 症状や不安を表出することが苦手・難しい患者のなかには、質問票を活用して心身のつらさや生活の困り事を伝える方もいる
- 質問票を介した基本的緩和ケアの提供が、通院治療継続支援につながっている

7. スクリーニングによるメリット

医療者のスクリーニングスキルの向上

- 外来：質問票回答や様子の変化に気づく
声をかける 見守る
- 化学療法室：看護記録の変化（患者像やケアがみえる）
- 医療者間コミュニケーションの促進
- スクリーニングを継続していくことで、専門的緩和ケアが必要な時期（病状進行に伴う苦痛症状、抗がん治療中止等）を逃さぬように、医療者で連携して対応していく体制づくりにつなげられるのではないか

8. 今後の課題

- 対象条件の見直し（拡大）
- アウトカム指標の検討・設定・評価
- スクリーニングツール（質問票）の見直し
- 記録・データ集計方法の見直し
- 緩和ケアセンタースタッフのスキルアップ
- 人員不足に対する方策
- その他